

1

問1 解答例

ザールブリュッケンでは、交通政策や都市デザインにより歩行者優先の賑やかな中心市街地が形成されている。これはフランクフルトでの歩行者専用のショッピングストリート設立にもみられる。1960年代以降、大気汚染や交通事故問題を背景に、1970年代には歩行者中心の都市設計に移行した。さらに「座れる場所」の重要性が強調され、地域コミュニティの形成に寄与している。また、中小都市でも中心市街地は多世代が楽しめる活気ある場となっている。マンハイムやヴェルツブルクなど大規模都市では、路面電車が重要視され公共交通の利用促進により歩行者専用空間が整備され、魅力的な地域が形成されている。さらに、小都市のフーズムには高齢者が安心して買い物できる市場が整備され、地域の魅力や生活の質向上、介護予防に貢献している。このように、ドイツの都市設計や交通政策は快適で利便性の高い生活環境を提供し、質の高い暮らしに重要な役割を果たしている。(396字)

問2 解答例

歩行者中心の空間の創出が重要であり、今後の都市づくりにおいて福祉、環境、経済のバランスを考慮した取り組みが求められる。(59字)

2

問1 解答例

自分自身の生き方や考え方を見直し、よりよい生き方を追求するためのもの。

問2 解答例

親が本を楽しく読む姿や趣味を楽しむ姿は子どもにとって大きな影響を与え、自然に学ぼうとする意欲が育まれられる。そして、子どもは強制されることなく、自らの意思で興味を持つようになり、これが親の楽しく学ぶ姿勢を通じて最も良い形で結びつく。さらに、大人は「子どもを見守る」という意識よりも、「子どもから見られている大人」という視点を持つことで、子どもの学習意欲や使命感を育むことができ、学びにつながる。(197字)